―令和5年11月25日発行（No.292）―

ふるさと上越ネットワークたより

編集・発行　**ふるさと上越ネットワーク事務局**
〒101-0064　東京都千代田区神田猿楽町2-1-2
TEL. 03-5244-5138　FAX. 03-3294-6106
●本庁担当：上越市　総合政策部　多文化共生課
〒943-8601　新潟県上越市木田1-1-3
TEL. 025-520-5674

ホームページ▶　ふるさと上越

はねうま大橋からの眺め　１０月２１日撮影：松本 栄規さん

「たより」No.292　目次

会員数と「ふるさと市場」販売報告 ……1
Ｊネットの活動とお知らせ……2
同窓会・郷友会コーナー……3
　東京牧村会　高田高校校友会東京支部
スポーツ便り……4
　陸上界での上越勢の躍進　霜越　隼人
とれたて上越……4
　上越の行事・展示会・話題
会員ひろば……5
　なぜ上越なのか？
　定住地としてあるいは別荘としての上越
　Willem Kortekaas　ウィレム・コルテカース
　同姓の誼（よしみ）　宇賀田 洋巳
瀧川鯉橋師匠　高座予定……7
上越産品販売のお知らせ……7
俳句ひろば……8
上越市からのお知らせ……8
Ｊネットからのお知らせとお願い……8

会員数と「ふるさと市場」販売報告

（１）会員は651名（令和５年10月31日現在）です。 ※令和５年度目標610名達成。

（２）「ふるさと市場」の販売取次状況（令和５年10月）　145点　270,552円　※前年同月　87点　184,254円

Ｊネットの活動とお知らせ

◆ 10月12日(木)湯島にてサロン開催

Ｊネットの集まりに初めて参加しました。乾杯の後は私と久々に参加された方々数名で、自己紹介或いは近況報告を。そして歓談になり、丁度「不思議板倉郷」の感想をたよりに掲載して頂いた直後でしたが、その板倉出身の瀧澤様が日体大時代にドイツ留学をして大活躍されたお話しに感服しました。食べ物、飲み物では、美味しいコシヒカリの塩握りに舌鼓を打ち、浦川原の地酒を下戸のくせに美味しいもんだから何杯か呑んでしまい、二次会ではうたた寝をしてしまいました。先輩の方々にはご容赦下さい。

また是非伺いたいと思います。　（西口 義久 記）

ご参加のみなさん

今回のサロンは７月再開後の一番の人数になりました。浜野さんからの差し入れのミョウガの酢漬けが人気。また久々に上越から参加頂いた小坂恵美さんに購入と運搬をお願いしたクッキーと玄米かきもちが好評でした。

（事務局より）

《Jネット女子部のみなさん》
中学卓球部のご指導を終えサロンにかけつけてくれた阿部さんを囲んで

◆ 11月9日(木)湯島にてサロン開催

当日のサロンは27名、10月をさらに超える参加者数になりました。上越からの参加は魚住かまぼこ店から田村さん（顧問、前店主）、上石さん（新店主）と竹内さん、そして前回に続いて参加の小坂恵美さんの4名でした。

ご参加のみなさん

田村さんの乾杯で始まり歓談に。田村さんから久々にお話しを聞き、いよいよ春日山麓のご自宅で自由な生活を楽しむことが出来ることになるとのこと。久々参加の店主になられた上石さん、竹内さんからもそれぞれ近況をお話いただきました。初参加の木嶋さんからはご自身の紹介があり、そのあと本職の絵画以外の話題である大学リーグ野球部の部長時代の経験・苦労話を聞きました。久々参加の舟波さんからも近況報告がありました、また近々友人にJネット入会の声掛けをして下さるそうです。

松本さんからの差し入れ「かたふね」はじめ清酒と酒の肴がすすみ、またスイーツでは今回は「まめ板」が好評でした。二次会には１２名が参加しました。

かたふね
「彩生」「ひやおろし」

魚かまチップス
ほんのり塩味、サクサク食感のチップスです。

なお、魚住さんからは「魚かまチップス」を全員に頂きました。お礼申し上げます。　（小坂 庸雄 記）

【次回以降のサロン】（予約不要・途中からのご参加もOKです。）　毎月第２木曜日開催　参加費1,500円

◆12月14日（木）17：30～19：00
1月11日（木）17：00～19：00
1月サロン＆新年会ご参加の方は事務局までご連絡ください。（飛び込み参加も歓迎です。）

東京新潟県人会館「ふれあいふるさと館」　〒110-0005　東京都台東区上野1-13-6　TEL：03-3832-7619
ご照会やご参加は、事務局（宮里）Mail：k.miyazato@araipt.co.jp　TEL：03-5244-5138までお願いします。

◆ 2024年版Jネットふるさとカレンダー

今年も上越の素敵な景色の写真でカレンダーを制作中、12月２５日号に同封します、お楽しみに！！
写真提供くださいましてありがとうございました。

◆ 第49回Jネット勉強会 練馬区立 牧野記念庭園 報告

１１月１１日（土）前日までの暖かい晩秋から一転、寒風が吹きすさぶ初冬の天気となりましたが、１４名(女性５名)が参加しました。

朝ドラ「らんまん」のモデルにもなった植物学者である博士が晩年過ごされた住居・庭園を観賞、遺品や資料を閲覧し、改めて博士の業績に感銘を受けました。「らんまん」の人気で入園者は多かったです。

そのあと、近くのレストランで全員でランチ、上越の話題に花が咲き楽しいひとときでした。

皆さんがこの企画に参加されて喜ばれたことは幹事冥利に尽きます。

（溝口 良二 記）

同窓会・郷友会コーナー

◆ 東京牧村会第27回総会・懇親会を開催

東京牧村会は10月22日（日）、上野精養軒で4年ぶりに総会・懇親会を開催しました。会員始め故郷から上越市長代理の牧区総合事務所長、牧区要職者、東京新潟県人会要職の皆様、友誼郷人会会長含む70名を超える方が出席、盛大に開催されました。恒例の故郷牧区の物産販売会場では、休憩時間を挟み皆さん買い込んでいました。抽選会では牧産の餅やメープルシロップ等で大いに盛り上り、最後は「牧村民歌」、「ふるさと」等を有志が壇上で合唱し、終わりに万歳三唱し次回の再会を誓い閉会となりました。

（東京牧村会 会長 鈴木 勉）

◆ 高田高校校友会東京支部
国立競技場リレーフェスティバルに参加しました！

10月7日(土)、秋晴れのもと高田高校校友会 東京支部は昨年に続き日本陸連主催の「みんなでつなごうリレーフェスティバル」に参加しました。秋晴れのもと多くの校友が応援団として集まり、10代から80代まで４チーム合計２０名の校友が選手としてトラックを走り抜けました。大学生の現役陸上選手男女混合チーム「妙高」は昨年に続き１位！ダントツの走りでした。続く「火打ち」チームもなんと１位！応援団も大いに盛り上がりました。歩いてゴールを目指すウォーキングリレー、50mずつ8人で400mを走る「もっと気軽にリレー」もそれぞれに大健闘して最高の一日となりました。たいへん素晴らしい国立競技場ですが、昨年のオリンピックは、世界のトップアスリートたちを迎えながら無観客でした。観客の大声援あっての陸上競技大会だということを実感しました。

（祖父江 ひろみ 記）

スポーツ便り

◆～陸上界での上越勢の躍進～

霜越 隼人 (旧名立町出身)

猛暑が続いたこの夏でしたが、陸上界では上越出身者の躍進が目立ちました。

まずは6月1日～4日にかけて行われた第107回日本選手権女子5000mで妙高市出身（新井中）の小海遥選手（第一生命グループ）が“超人”田中希実選手と競り合った末に、自己新の15分23秒98で3位に入りアジア選手権への切符をつかみ、7月12日からバンコクで開催されたアジア選手権では女子10000mに出場、32分59秒36の記録で見事金メダルに輝く快挙を上げました。また10月20日から3日間にわたって愛媛で行われた日本陸連主催の中高生最高峰の大会、「ジュニアオリンピック」（第17回U18 第54回U16陸上競技大会）では高田高校の現役陸上部が活躍。男子やり投で北信越大会を優勝して出場権を掴んだ篠原暖日選手（高田3年）は3投目に60m超えのビッグスローを記録し60m14の記録で5位入賞、男子800mに出場した植木大悟選手（高田2年）も予選を1:55.25のタイムで決勝進出、U18男子800m決勝では1:53.97の記録で8位に入賞。出場2選手とも入賞を果たすという快挙を達成しました。

上越にゆかりのあるスポーツ選手の活躍に今後とも注目していただければと思います。

R5.6.4 日本陸上競技選手権大会 女子5000m表彰式
（写真右）小海遥選手

とれたて上越

◆上越の行事・展示会・話題

第１８回　越後謙信SAKEまつり2023

―主催：越後・謙信SAKEまつり実行委員会

新潟県上越市の地酒と食の一大イベント「越後・謙信SAKEまつり」が2023年10月21、22日の2日間、高田本町商店街で開催されました。悪天候にも関わらず多くの人々が、地酒・ワイン・どぶろく・クラフトビールなどを味わいました。

10/21(土) 撮影：松本 栄規さん

３つのクラフトビール醸造所ができました。

ここへきて上越市に下記３つのクラフトビール醸造所ができました。（スタートアップ中につき店舗営業や商品販売は、変更もあるそうです。）これで日本酒、ワイン、蒸留酒（ジン）、ビールが揃ったことになります。

（情報提供　太田 貫治さん）

「TERRA」
上越市寺町３丁目１６-４
営業時間：金・土・日曜日
12時00分～ 16時00分
TEL：080-8372-9277

「オタマブルーイング」
上越市三和区末野新田1702
営業時間：水・木・金・土
12時00分～ 18時00分
TEL： 025-532-2608

「Gangi Brewing」
新潟県上越市大和２丁目１６-４
※11月中旬オープン予定

今回、移住をテーマにした寄稿文を掲載することになりました。
筆者のウィレム・コルテカースさんは小坂恵美さんからの紹介です。大変貴重な、興味深い記事を寄稿いただきました。
また、翻訳では笹川枝里子さんに協力いただきました。

（小坂 庸雄 記）

◆なぜ上越なのか？
定住地としてあるいは別荘としての上越

Willem Kortekaas ウィレム・コルテカース（五智在住）

4年前、上越に移住することになったと聞いた東京の友人たちの反応は、毎回「ああ、もちろん上越新幹線で行くのだね」というものだった。ご存じの通り、本当は北陸新幹線なのだが、このやりとりの後にはたいてい「なぜ上越なの？」という質問が続いた。

その時点では、この質問に答えるのは少し難しかった。当初は自分の選択が正しかったかどうか確信が持てず、上越が、健康的でリラックスした生活環境を求める人々にとって、ユニークな立地を持つ都市であることがわかるまでにはしばらく時間がかかった。冬はスキー、夏は美しいビーチ。周りは山。澄んだ空気、美味しい食べ物、そして美味しい地酒の数々。街には多くのスポーツ施設があり、広々とした空間を感じさせると同時に、都会の便利さをすべてとは言わないまでも、ほとんどを提供してくれる。

引っ越しの決め手は、五智海水浴場の近く、国分寺のほぼ隣で、買い物や直江津駅にもそれほど遠くない、日本庭園付きの広い中古住宅を見つけたことだ。自分のライフスタイルに合わせて家を改造することができた。今でも時々東京に行くが、上越は間違いなく帰る場所となった。

しかし同時に、この地域の出身者でない人々にとっては、上越というイメージがまだ定着していないように強く感じる。52年前の市町村合併で新しく付けられた上越市という名前は、高田と直江津の名前をわかりにくくしてしまった。

この合併は1971年に行われた。高田市と直江津市は、それぞれ新市庁所在地になる妥当な主張をしていたが、市は長年の交渉の末、高田と直江津のちょうど中間地点に新市庁舎と新市街地を設けることを決定した。これにより、高田と直江津の経済・社会活動は徐々に衰退し、新しい「中心市街地」である木田ではそれを補いきれなかった。上越は事実上、"心臓にあたる中心地"のない都市となったとも言える。

都市には、強いイメージを定義し確立する正当な理由がある。イメージ作りを専門的に行えば、比喩的に言えば、上越を地図に載せることができる。強力でポジティブなイメージは、観光を促進し、産業投資を誘致し、新しい人々や新しい活動を上越にもたらすだろう。

上越市は、日本のほとんどの都市が抱える問題と無縁ではない。上越市の人口は毎月約100人ずつ減少しており、長期的に見れば、この傾向は市の財政的な存続を危うくするだろう。 この地域の長く豊かな歴史、スポーツやアウトドア活動のための多くの施設、市のコミュニティ精神を強調し、財政的インセンティブ（奨励制度）を積極的に活用することで、より強いイメージを打ち出すことが、人口減少を好転させる一助となるかもしれない。

また、上越のイメージが高まることで、東京近郊の伝統的な週末別荘地に代わる選択肢として上越を位置づけることができるかもしれない。経済的に余裕のある人々にとって、「別荘」は都会の夏の暑さから逃れるため、あるいはストレスの多いビジネスライフから解放されるための便利な手段であった。 三浦半島、伊豆半島、富士山周辺、群馬、長野などだ。しかし、別荘は高くなった。しかも、最近の週末や休日の通勤は、長時間の渋滞に巻き込まれることが多い。公共交通機関では行きにくい場所も多い。上越なら、もっといい選択肢になるのではないか？東京から上越妙高駅までの新幹線は、東京近郊の別荘へ行くのに渋滞に悩まされるのに比べれば、ずっと早くて便利だ。

コロナの経験は、この問題に対する別の視点を導入した。在宅勤務になったことで、別荘を所有している少数の幸運な人たちは、よりリラックスした環境で仕事をする機会を得ることができた。在宅勤務のトレンドは明らかに続いており、汚染された都会で、過密な公共交通機関の中で、狭い住宅に住む首都圏の多くの人々が選択肢を探している。上越は、特に東京との接続が速く便利なため、別荘や定住に便利な選択肢を提供している。

東京には、上越との接続がどれほど速くて便利かを知る人はほとんどいない。また、高田をはじめとする上越地域の自治体に、何千人もの新住民を受け入れるだけの空き町家や古民家があることにも気づいていない。購入価格もリーズナブルで、リノベーションすれば、新住民は自分のニーズや好みに合わせて部屋をカスタマイズすることができる。

次頁へ続く

最もわかりやすいマーケットである首都圏の人々に、このことをどのように知ってもらうか。人口減少を逆転させる長期的なメリットを考えれば、包括的な上越プロモーション・キャンペーンを実施することは決して難しいことではない。同時に、東京の友人や知人との交流の中で、上越に別荘、つまり永住するという考えを広めることで、私たちは貢献できる。

ウィレム・コルテカースさん五智のご自宅

【ウィレム・コルテカースさんのプロフィール】
アムステルダム市出身、現在 79 歳。
兵役を経てオランダ銀行に入行後、日本支店に 2 度赴任。
日本文化に魅了され、1990 年に日本で独立する。日本と欧州の貿易を仲介するコンサルティング会社を都内に設立。
2019 年に上越市に移住する。趣味の写真に没頭できる環境を探して、美しいビーチ、コシヒカリの実る平野、雄大な山々に囲まれた土地に一目ぼれ、直江津五智地区に移住。
https://joetsu-stories.jp/

◆同姓の誼（よしみ）

宇賀田 洋巳（新光町出身）

皆様は嘗て鎌倉山にあった棟方版画美術館を訪れたことがおありでしょうか。今回取り上げるのは平成22年閉館まで理事として支えた宇賀田達雄氏のことです（奥様は棟方志功氏長女）。私とは同姓ですが親戚ではありません。そもそも宇賀田という珍しい姓は、日本で中世以降信仰された神で、財をもたらす福神とされた宇賀神に由来しています。鎌倉の銭洗弁財天も宇賀福神社ですし、大磯の滄浪閣前に石鳥居がありますが、そこも宇賀神社です。宇賀神姓は日本全国に散在しますが、宇賀田姓は江戸時代に上越市浦川原区小蒲生田に記録があり、ここが発祥のようです。私も上越市出身なので、戸籍を辿ると、この地区に繋がりがあります。父の母（私の祖母）が宇賀田姓でしたが、その祖母の祖母が明治13年小蒲生田の某宇賀田家の養女となり神職をしていました。神職であった高祖母は生涯独身で、養子をとっているので（私の曽祖父）、当方の宇賀田姓はそれ程歴史あるものではないようです。

さて話を達雄氏に戻します。彼は大正11 年東京に生まれ、昭和17 年東京大学国文科入学、1年半後の昭和18 年暮れに学徒出陣、翌昭和19 年繰上げ卒業をしています。戦後朝日新聞に入社、平成24 年90 歳で大往生されています。そういう方ですが、平成20年に御自分の祖父の伝記「宇賀田次助のこと」を出版されました。次助氏は東頸城郡浦川原村小蒲生田生まれなので、私のルーツと同じ集落になります。この伝記を私の父が人伝てに聞いて読み、田舎者の厚かましさから、達雄氏に手紙を送りました。この本にあった「宇賀田は江戸時代、農民の苗字が許されなかったときにも密かに伝え続けた誇り高い姓」という記述が嬉しかったのでしょう。父はその後も親交を続け、その過程で、次助氏の異母弟は、当方のルーツである某宇賀田家から嫁（血縁ではないが高祖母の姉）を迎えていることまで分かり、接点が確認されるに至りました。また平成22年には御自身の戦争体験を著した「私は見た―ある学徒兵の記録―」を献本頂きました。この本は同年3月13日朝日新聞夕刊にも取り上げられました。当時、中学生だった長男が先生から「君の縁者か」と聞かれたと言っていました。このときは父同様、私も感想を綴ってお手紙しました。その後、達雄氏からも返信を頂きました。

今回読み返すと「軍の暴走以前に国民の暴走が始まっていた」という冷徹な言葉もあり、ジャーナリストの一面が窺えます。また「同じルーツを持つ者が広がっていくのは嬉しい限り」という言葉もあり、最晩年の僅かなお付き合いではありましたが、私の半生においては鮮明な記憶として残っています。

最後になりますが、宇賀田姓のルーツである小蒲生田（こがもだ）は令和に入って消滅集落になってしまったそうです。訪れたことはありませんでしたが、故郷の寂しい現実を知りました。

旧小蒲生田集落跡地

瀧川鯉橋師匠　高座予定 鯉橋：090-4730-9032　rik_yoh_taki@taupe.plala.or.jp（鯉橋メール）

◇11／30（木）「七人の侍～流浪の落語勉強会～」＜12／26(火)も＞
時　間：午后１時～３時半ごろ　木戸銭：1,500円
出　演：鯉朝、枝太郎、楽生、鯉橋、鳳志
会　場：お江戸日本橋亭(三越前)

◇12／21(木)お江戸日本橋亭「鯉橋の会 in 日本橋亭 vol.18」
～とりあえず最終回～
時　間：午后6時～８時半ごろ
木戸銭：2,000円(前売・予約1,500円)
出　演：花金、鯉橋ーお仲入りー鯉橋「文七元結(前)」、
うめ吉、鯉橋「同(後)」
会　場：お江戸日本橋亭(三越前)
お問合せ：鯉橋または03-5909-3080(芸協)

◇12／21(木)～27(水)浅草演芸ホール・昼の部
時　間：正午～４時半
※鯉橋は午后1時ごろの交互出演(出演日未定)
主　任：古今亭今輔　ほかに寿輔、鯉昇、柳橋など出演。
お問合せ：03-3841-6545(浅草演芸ホール)

◇1／15(月)グリーンホール八起寄席
時　間：午后6時半～８時45分ごろ
木戸銭：2,000円(前売1,700円)
65才以上1,500円など各種割引有り※要お問合せ
出　演：文菊、兼好、鯉橋、談修
会　場：相模女子大学グリーンホール(相模大野)
お問合せ：042-749-2200(相模女子大学グリーンホール)

◇1／16(火)「七人の侍～流浪の落語勉強会～」
※この回から両国亭で開催
時　間：午后1時～３時半ごろ　木戸銭：1,500円
出　演：鯉朝、枝太郎、楽生、鯉橋、鳳志
会　場：お江戸両国亭(両国)

◇1／28(日)梶原いろは亭「なかよしおじさんズ」
時　間：午后1時～３時ごろ　木戸銭：2,500円
出　演：鯉橋、小助六、夢丸
会　場：梶原いろは亭(北区上中里3-1-4)
お問合せ：03-6322-1622

☆ブログ『～七転び八起の末のホンダラダ～』https://blog.goo.ne.jp/rikyoh3194 もぜひご覧ください。　鯉橋拝

上越産品販売のお知らせ

● **Ｊネットふるさと市場「取次販売商品一覧」**
現行の各社パンフに加えて、取次販売商品一覧（Ａ４版１枚）を同封にてお届けします。
会員は送料無料でお取り寄せができますので、どうぞご利用ください。

● **上越特産市場**　ＪＣＣソフト株式会社運営による、上越農林水産物・特産品のネットショッピングモール「上越特産市場」です。「**上越特産市場**」でネット検索いただき、お申込み下さい。

● **常設店舗「雪國商店」**（有楽町駅から約３分）
場所　有楽町交通会館１階　営業時間11：00～19：00　年中無休(年末年始は休業)
「雪國商店」でもネット検索してご覧ください。お問合せ先：JCV東京情報センター　TEL：03-5218-7730

● **新潟・上越妙高「うまさ直送！雪国マルシェ」**上越特産品販売の「雪国マルシェ」は、下記にて予定しています。
日時　12月16日(土)・17日(日)・23日(土)・24日(日)　1月27日(土)・1月28日(日)
会場　有楽町　交通会館１階　開業時間11：30～17：30

●ふるさと上越ネットワークのホームページをご覧ください

（Ｊネットたよりを全ページカラーでご覧いただけます。）
おかげさまで、ＪネットＨＰの閲覧は、国内、海外を合わせて増え続けています。内容も、上越市の四季の写真他、掲載は多様です。ぜひとも、「ふるさと上越ネットワーク」を検索し、ご覧ください。スマートフォンからは、右のQRコードからご覧ください。
Ｊネット会員は、上越タイムス電子版ならびに上越ケーブルビジョン（ＪＣＶ）の動画を閲覧できます。

上越妙高エリアの今をお楽しみください。

◎上越タイムス電子版、上越ケーブルビジョンへのアクセス方法（会員のみ）

① HP右肩「Jネット会員メニュー」をクリック　②「ログインはこちら」をクリックし各社のＨＰへ
③ 下記のメールアドレス・パスワードにてログインしてください。

[redacted]

[redacted]

俳句ひろば

長雨や人より虫の飽きてをり
ゆくりなく光悦垣と萩の花
街騒（まちざい）を退けてをり竹の春
吟行の人のメモするばつたんこ
鹿威（ししおど）しのことです
段丘の底は湧水鰯雲
佐藤 光子

明滅は演習機なり五月闇
南風うけて琉球に古る水の神
片陰やとぎれとぎれの島の道
太鼓打ついのちの力夏の月
赤蜻蛉無量なりけり摩文仁丘
平和記念公園のある丘
ルディセル 泰子

上越市からのお知らせ

◇上越市に「ふるさと納税」しませんか？◇

令和4年8月から寄附に対するお礼の品を拡充しました。温かいご寄附をありがとうございます。
引き続きふるさと上越への応援をお願いいたします。
下記のポータルサイトに、上越市のお礼の品を掲載しています！（9サイト）

※左のQRコードから、各ポータルサイトの情報をご覧いただけます。

ふるさと納税なら ふるなび

令和5年11月1日左記のポータルサイトが追加されました。

▲地元飲食店の食事券も人気です

ふるさとチョイス ふるさと納税総合サイト
地域から日本を元気に！ 楽天ふるさと納税
さとふる
au PAY ふるさと納税
SAISON CARD セゾンのふるさと納税
ふるぽ JTBのふるさと納税サイト
ANAのふるさと納税 マイルが貯まる
JRE POINTが「貯まる」「使える」 JRE MALL ふるさと納税

▲トラベルクーポンで
上越市に宿泊しませんか？

紙カタログのご用意もありますので、ご希望の方は上越市にご連絡ください。

照会先：総合政策課企画調整係（TEL：025-520-5625）

Jネットからのお知らせとお願い

皆様よりの寄稿、投句をお待ちしています。
さらに、たよりについての感想、記事や俳句の感想をお寄せ頂ければ、寄稿や投句された会員の励みになります。こちらもお待ちしています。

Mail 送信先　事務局：k.miyazato@araipt.co.jp

◎次号「たより」は令和5年12月25日の発行です。

菅原神社のもみじ　撮影：松本 栄規さん